

本市観光の振興策
について

誠心会 山田裕一

〔質疑〕本市の観光は、宮城蔵王の雄大な大自然や白石城を中心とする歴史や城下町ならではの風情を活かしたものである。さらに昨今の戦国武将のブームにより、片倉小十郎の城下町白石を訪ねて来られる観光客に今までにない盛り上がりを感じている。

一昨年のプレDC、昨年のデスティネーションキャンペーン（以下、DCと表記します）を受け、県内、他市町村と比較しても本市のDC効果は高かったと実感している。DCの検証が今後の本市観光対策の重要な柱になると思うが、検証結果をどのように活かそうとしているのか。

また、DC効果を持続させる方法とポストDCの観光の目玉をどのように考えているのか伺う。

〔答弁〕昨年、DCの開催及び戦国武将ブームなどによって、市内を回遊する観光客は確実に増加している。

観光の形態によっては、ヘルスツーリズム、白石城、壽丸屋敷を中心とした各種イベントを開催しながら、また、沢端川の流れなど美しい自然環境と融合した事業の展開などを踏まえて多くの観光客の皆さんに市内を楽しんで回遊してもらえよう取り組みを推進していきたい。

また同じ市内でも例えば不伐の森、水芭蕉の森等を踏まえ、小原・鎌先、二つの温泉を活かした健康増進のための施策、また特産品の温麺を生かすことなども考えられる。今後も、市民一人一人が温

かいおもてなしの心で観光客をお迎えすることが今後の成功につながるのではないかと思っている。

工業団地造成等について

社会民主党 吉田貞子

〔質疑〕①100年に一度の経済危機で、団地造成のリスクを市長はどのように判断しているか。

この経済状況下で、一旦、団地造成を休止する考えはないか。

②児童福祉法によれば、子ども



白石城

もは社会から保護される権利を持ち、国及び地方公共団体は児童の心身ともに健やかに育成する責任を負うこととなっている。子育て支援の目的を、市長はどのように考えるか。

〔答弁〕①3月に全体的な事業費について確定する見込みであり、この不景気の中でも今造成しておかなければ、今後景気が回復した場合、また企業誘致の機会を逃すことのないように、計画を進めており中止は考えていない。

②子育て支援に関する諸事業は4万人都市復活大作戦の大きな柱である。

その背景に、地方都市にあっては、少子高齢化が進む中、人口の減少局面に入っていることがある。

こうした状況下にあつて、若者が明るい未来像を描いて暮らせる社会、また勤労世代では就労活動と家庭生活の調和のとれた市民生活を送れる地域、また高齢世代にあつては生涯学習を通じた生きがいと異世代交流による心の触れ合いのあるまちなど、市民共同参画のもと、若年層が定住

し、安心して結婚、出産、育児ができる子育て支援を行うものである。

農業振興施策について

新生会 菅野浩一

〔質疑〕国の農業政策が次々と変わっていく中で、農業者はついていけないと考えている。

農政に対して信頼感を取り戻すことが大事だと思うが、市長は、どのような感想を持っているのか伺いたい。

〔答弁〕報道などによると、生産調整を平成22年度から選択制に切りかえる案が明らかにされている。

現在の水田経営所得安定対策は4ヘクタール以上の認定農業者、また20ヘクタール以上の特定農業団体が該当しているが、本市はまだ加入者が少なく、一農家の生産面積が少ない地域であつて、なじめないと思つている。

国にお願いしたいのは、農業施策については、特に白石のような中山間地域への配慮であると思つている。